

入中1年人権だより

徳島市 八万中学校
1年生 第9号
2020年9月8日
編集・埴 吉成正士

「戦争について考える」第2弾

前号の続きです。まだありますよー！読むだけで勉強になります。どうぞ！

私は戦争についての放送を観て、戦争の恐ろしさをあらためて感じました。たくさんの命が奪われ、被害に遭い、何も残らない戦争に意味はあるのかと思いました。戦争が二度と起こらないためには、やっぱり思いやりや助け合いだと思います。いきなり大きなことからではなくて、身近なことから始めるべきだと思います。例えば、誰かが困っていれば助けたり、誰かが泣いていれば寄り添ってあげたり、小さいことから平和は生まれてくるのだと思います。そして、戦争の恐ろしさを、次は私たちの口から後世へ伝えていかなければならないと思いました。

TB

* * *

私は広島の原爆や沖縄について5・6年の頃から気になっていて、図書室や学校で配られる新聞や祖父の話の聞いたりしてきました。私がすごく印象に残ったのは、「ヒロシマのうた」、「この世界の片隅に」、「アンネの日記」、沖縄戦の新聞です。これら4つの作品や新聞は、日本がどれだけ戦争のために犠牲になったか、どれだけ日本国民は日本に支配されていたか、そして戦争の被害を毎日受けていた人の悲しみがよく分かります。

「この世界の片隅に」は、主人公が大切な人に対して、「この世界の片隅に私を見つけてくれてありがとう」という意味が込められているそうです。主人公が抱えていた戦争に対する悲しみが、表情や言動に表れており、すぐさっきまで楽しそうに話していた親戚の子どもが一瞬で亡くなったりして、戦争の残酷さに泣いたりもしていました。このようなことが75年前まで起こっていたと考えると、今の時代に生まれたありがたさと同時に、しょうもないことでたくさんの人や日本を犠牲にして勝つ意味がどこにあるだろうと怒りも感じます。朝起きたら足下で人が何人も死んでいたり、アメリカに勝つために私たちぐらいの学生が戦い、自決を強いられたりしたこと。戦争は一人一人が一生向き合っていかなければならない大きい人権問題だと思います。

戦争なんてなければいいのにと思っていても、差別やいじめをしていると、もうそれは戦争を仕掛けているのと同じぐらい重大なことだと思います。自分が戦争のような厳しい体験をしたくないなら、二度と戦争を起こさないなら、いじめや差別をしないように努力する。それが一番の人権・戦争への向き合い方だと思います。

AK

読んでいて思ったのは、「表現することの大切さ」であり、「思ったことを素直に言えることの大切さ」

でした。思ったことが素直に言えない社会を想像してみてください。それがつまり、戦時中です。そして言えないからといって言わなくなると、どんどん社会は変えられていきます。それが良い方向ならいいのですが、そうとは限りません。それは歴史が物語っています。そうならないために、今、みなさんは教科の授業や道徳・学活・総合の時間で、「表現する力」をつけているのです。もちろんそれは、みなさん自身の将来のためでもあります。それだけではなく、「もの言えぬ社会」にならないため、「もの言えぬ社会」にしないために、子どもの頃からずっと、「表現する力」「思ったことを素直に言える力」をつけてきたのです。ですから、表現することを怖がり、止めてはいけません。思ったことを黙ってはいけません。たとえそれが上手くできなくても、やっていかなくても上手くできるようなにはならないのですから、やっていくことです。

ただ、思ったことを言うだけでなく、相手のことを聞くことも大切です。つまり、「対話することの大切さ」です。ですが、あなたが上手く伝えられないこともあれば、相手がちゃんと聞いてくれないこともあります。上手く伝えられないことについては、できるように努力すればいいですよ。でも、聞いてくれないときはどうすればいいでしょう。そんなときのために、話を聞いてもらえるような自分になっておくのです。感情的にならず、相手のどんな話にも合わせられるような、そんな懐の深い、知恵の豊かな人間になっておくのです。

2年後、みなさんは進路についてお家の人や先生と話をせねばなりません。また入試の面接では、自分のことをきちんと話さねばなりません。その後も、就職するとき、結婚するとき、人生の節目節目に、きちんと自分の気持ちを伝えることが必要になります。その時のためにも、今からしっかりと、一つ一つの授業で、自分を表現することをやっていくのです。自分のため、平和な国であり続けるため、未来のために。

私は広島平和記念資料館に行ったことがあります。ドームを見てひどいと思ったけど、資料館は想像以上に心が痛く、悲しくなるほど怖い内容のものが多かったです。私たちは知っているとわかっていても、体験した人の心や痛みなどは分かりません。でも嘘も無く本当のことが書かれていて、今すぐ帰りたいと思うほどでした。落ちた当日は助かっても、放射線のせいで後から苦しんだり、強い痛みがくるのは原爆にしかない、最悪なことだと思います。この嫌だったことを忘れず、たくさん傷ついた心も、このままたくさんの人に知ってもらって、広げてもらって、このようなことを二度と起こさないようにしようと思いました。

MD

広島平和記念資料館に行ったんですね。素晴らしい。でも連れて行ってくれた人も素晴らしいです。

私も毎年のように行きます。8月6日に。でも今年
は学校があったので行けませんでした。その代わり、
ずっと念願だった、「みんなでテレビ中継を見る」と
いうことができました。

初めて見た人も多かったのではないかと思います。
こういう機会でもないと思わないでしようね。でも、あ
の日、みなさんと同世代の多くの広島の子もたちは、
毎年のようにあの日、あのときに、黙祷をしてきたん
ですよ。そんなことに気づくのに、私は何十年もかか
ってしまいました。本当に情けないものです。そんな
自分への戒めも込めて、毎年8月6日にはできる限り
行くことにしています。行けるときは自転車で行きま
す。暑いですが(笑)。でも、原爆が落とされたときは、
そんな暑さどころではなかったのです。そんなことを
思うと、へこたれるわけにはいかないのです。

みなさんにも、8月6日の平和祈念式典に行ってほ
しいなと思います。8月6日のすごさは行かないと分
かりません。けど、行けばテレビで見るよりも、何百
倍も何千倍も、いろんな思いが伝わってきます。

私は、「この世界の片隅に」を家のテレビで見まし
た。とても悲しい内容でしたが、とても感動させられる
映画でもありました。戦争の恐ろしさがよく分かりまし
た。75年前は、こんな残酷な戦いが起こっていたと私は
小学3年生の時に知りました。きっかけは、祖母の家に
あった本で、戦争でたくさんの生き物が殺されたことを
知りました。私はいろんな戦争の本や映像を見てきた
けれど、どれも残酷な内容ばかりで、また戦争が起こる
のではないかと思ひ、怖くなります。だから、もう二度と
戦争が起こってほしくないと思いました。私は8月15日
に、家族みんなで“もくとう”をしました。いろんな思いが
溢れる追悼式でした。 HM

素敵な家族です。本当に。みんながみんな、どの家
族もそのようにはいかないかもしれません。でも、黙
祷をしようと思える人が一人でも増えていければ、何
かが変わっていくのかもしれませんが。それは小さな歩
みですが、その一歩がなければ、次の一歩はないわけ
です。その一歩がなければ、歩みは永遠に消えたまま
です。だからそれは、やはり貴重な一歩なのです。あ
なたの思いが家族の行動を変え、家族の行動が、あ
なたの意識をさらに高めてくれます。打てば響く関係が
あればこそ、つながりが生まれていくのです。

僕が戦争について考えたことや思ったことは、戦争
は起きてほしくないし、たくさんの人が亡くなるからだめ
なことだということです。広島と長崎に原子爆弾が投下
され、日本が降伏しました。原子爆弾の被害は絶大で、
多くの人が亡くなり、放射線を浴び、病気になって亡く
なった人、今も生き続けている人など、いろんな人がい
ます。

日本の攻撃で知っているのは、真珠湾です。死者数
は約2400人とされています。この前テレビを見て、日
本人が原爆設計などをした人に「謝ってほしい」と言っ
たけど、アメリカの人は「謝ることはできない、謝るのは
そっちの方だ」と言って謝りませんでした。真珠湾のことを
根に持っていたのです。このテレビを見て、戦争のこ

とは難しいと思いました。

SK

その番組は私も観ました。被害者の面と加害者の面
の両面を見なければいけないということは、前号の人
権だよりも書きました。難しいですね。だからこそ、
「はじめから戦争なんてしなければよかったのに」と
思ってしまいますが、それは今だから言えることです。
戦争が起こる前にそれが言えてたかどうか…。

けど、それが言え、聞いてもらえるような社会であ
り続けないと、また戦争が起こるかもしれないわけ
ですから、難しいと言って逃げないことです。目を背け
ないこと、シャットアウトしてしまわないことです。
分からないことがあって、一時目を背けたり、ひと休
みすることはあっても、また目を向けることです。そ
れが、「8月」のもつ意味です。一度自分で広島平和
記念資料館に行ってみてはどうでしょうか。そうすれ
ば、あなたのなかで何か少し変わるかもしれませんよ。

僕は追悼式を初めて見ました。そこには戦争に立ち
向かった人たちの遺影を持って参列している人もいま
した。僕はそれを見て、悲しみや戦争へのつらさが伝
わってきました。こういう式は戦争を知らない僕たちの
ためにずっとみんなが追悼式を続けていって、多くの
人に知ってもらい、忘れないでいてほしいです。

僕は戦争について「ちいちゃんの影おくり」や、「火垂
るの墓」を見て知ったこともいくつかあります。たとえば
そのなかで、とてもつらかったのは、普通に幸せな日々
を過ごしていたのに、戦争が来て突然それが奪われ、
かけがえのない命がたくさん奪われたことです。今、僕
は普通に幸せな生活ができていますが、世界の様々な
ところで紛争が起こっています。だから、日本も紛争に
巻き込まれたり、戦争が起こったりするかもしれないと
いう不安があります。でも二度と戦争を起こさないた
めにも、平和学習に取り組む中で、戦争の恐ろしさ、命の
尊さについてしっかりと話し合っていくことが大切だと思
います。僕は、日々の生活の中で相手を思いやる気持
ちを大切に、今を精一杯生きたいです。 SI

そうなんです。日本だけのことを見ていたのでは、
「ああ、平和な国に生まれてきてよかった」で終わっ
てしまいます。世界には、今この瞬間も、紛争に巻き
込まれている国や地域があります。そしてそれは、私
たちも関係のないことではなかったりします。

みなさんはフェアトレードという言葉は聞いたこと
ありますか？「フェア」とは、「平等・対等」という
意味。「トレード」とは、「取り引き・貿易」という
意味です。つまり、「対等な取り引き」ということ
です。スーパーマーケットに行くと、実はそうなっ
ていない商品で溢れています。つまり、安く手に入る日本
の私たちの一方で、対等なお金を手にできない人た
ちが世界中にたくさんいるということです。それが貧
しさとなり、貧しさが争いを生んでいるのです。私
たちも関係ないことではないというのは、そういうこと
なのです。それを解消しようという動きが、国連を
中心に近年大きくなりつつあります。それが、「SDGs
(エスディー・ジーズ)」と言われるものです。そのこと
についてはまたいつか。